

高額医療負担軽減 財源捻出に課題も

高額医療の経済負担に苦しむ患者に対し、医療費の自己負担を軽減する国の高額療養費制度の見直しは、政府の社会保障改革案に盛り込まれた。昨年12月の厚生労働省社会保障審議会医療保険部会で財源不足を理由に導入が見送られていただけに、見直しを求めてきた患者らが前進として外来の一般患者の負担を増やす方法には異論もある。改革案

の現現への見直しも不透明で、患者らは安心して治療を受けられる制度の一刻も早い実現を強く求めている。「妻の訴えが少し国に届いたのではないかと」。高額療養費の見直し案を受け、北海道伊達市の金子健二さん(47)はこう喜んだ。高額な抗がん剤治療の経済負担に苦しんできた妻の明美さん(当時41歳)。大腸がんで昨年1月に亡くなる直前まで負担軽減を国などに

訴え続けた。「政府もか決めることは難しいが高額化する医療費を誰のだろが、早くがんがどのよう負担する患者が安心して治療を

し、税制の抜糸をたどる。所得が約600万円を超え、世帯と住民税非課税の世帯を除く70歳未満の一般所得者の場

手話辞典新たに2000例

全日本聾唖連盟が手話辞典を14年ぶりに改訂し、「新日本語—手話辞典」として今月から全国の書店で販売を始めた。イラストを使って手話での動作を解説。新たに手話で表現するようになった単語や用例など旧版に比べ約2000例増やした。

2年前から改訂作業を進め、「携帯電話」「メタボリック症候

群といった言葉を充実させた。手話の解説書が69年に初めて発行されてから約40年。編集者は「手話通訳のサークルも増え、手話を使う人は30万人を超えるのではないかと。標準的な手話の普及に役立ててほしい」としている。中央法規出版、B5判1808頁、2万3100円。【石川隆宣】

の検討を求めた。また、外来患者の窓口負担(原則3割)に加え、一律100円程度を上乗せする定額負担を財源として見込んでいた。これに対し、悪性リンパ腫の患者会「ゲルンパ・ネクス」の天野慎介理事長は「負担軽減への取り組みを打ち出したことは一歩前進と言え」と評価するが、「長期間にわたって経済負担を強いられている患者をきちんと救える仕組みになるかが今後の課題」と指摘する。一方、血液疾患の患者会「フェニックスクラブ」事務局の野村英昭さんは「高額医療を受ける患者の負担軽減のため、一般患

駆ける 岡部 健 [9]

TAKESHI OKABE

「昨年1月末に胃がんが見つかった」
前年の9月に北アルプスに登った時、踏ん張りが利かないなど感じました。貧血がひどくなり、看護師に言われ検査を受けたら、そのままバタバタと手術になりました。病室に窓はありませんが、ベッドからは空だけが風景が見えない。もともと自然が好きで、外界から閉ざされているのがめい。まあいいか、逝っちゃっても」と考えることもありました。

しになって見えた闇

「家に帰りたい」と意欲がわいてきた。他人から見ればつまらないものに、人は支えられているんだと感じました。
「昨年4月、自らの判断で退院。がん患者の側になり、自分の問題として死を思った」
家で庭の緑を見ながら一服したら、ホッとしました。レンズはすぐ購入しましたが、5キロくらいあって持ち上げられませんでした。体力も体重も落ちていました。ガゼ交換は自分でして、診療所の看護師に抗生物質を点滴投



おかべ・たけし 日本ホスピス緩和ケア協会理事。61歳(写真は10年ほど前、燕岳<つばくろだけ>を背に。毎年のように北アルプスに登った本人提供)

宗教性でしょう。でも残念ながら、日本はそうした価値観を壊してきた。
「告知のあり方にも複雑な思いがある」
私は、自分の病気を知りたい患者には真実を伝えてきました。一方で、人が未来を知ることが幸せなのか、がんを体験して強く感じました。
病院で余命3カ月と告知された患者は、その言葉が頭にしみついて「あと何日」と数えていました。年単位で生き続ける例もあるのに、患者には不安と絶望だけが残

聞き手・下桐実雅子/火~土曜日掲載です

家族と

津波当日の3月11日家族を捜して岩手県陸高田市の高台を駆け出た吉田寛さん(33)は、社の境内で長男芳広(9)の担任に出会った。児童は全員避難したとき、そのまま走り続けた3カ所目の避難所で芳君の無事を確認した。吉田さんは「お母さんと(次男の)将寛とぼちゃんを捜してくるぞ、だめかもしれないと告げ、芳広君は無言うなすいた。父はそのも9歳の息子に隠さず実を告げることにな

「現実に向き合っ